

# 「医療・介護を要する在宅患者の転倒に関する多施設共同前向き研究」 結果のご報告

研究責任者 国立病院機構東名古屋病院 饗場 郁子

上記研究にご参加いただき、誠にありがとうございました。H21年から研究を始め、結果がまとまってまいりましたので、ご報告申し上げます。

全国の国立病院機構  
44病院へ通院中の介護  
保険を利用中の1415人

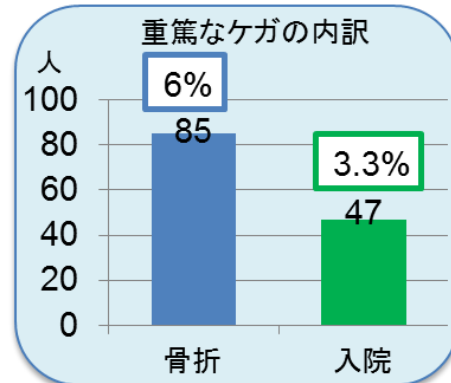
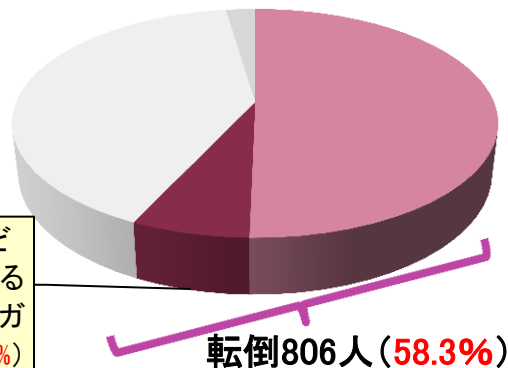
男性631人, 女性784人  
41~103歳(平均75.5歳)

1年間転倒と  
転倒による重篤な  
ケガを観察

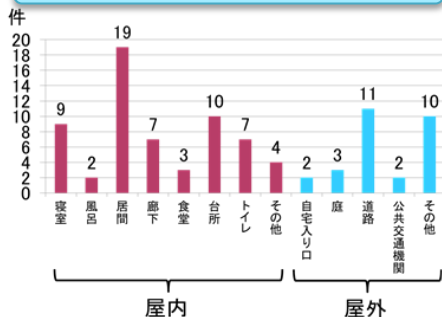
J-FALLS



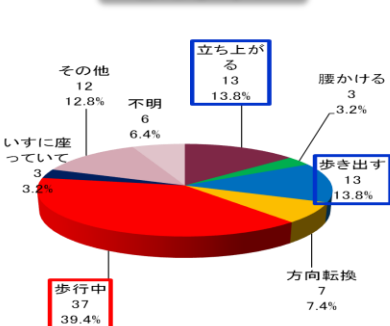
骨折など  
転倒による  
重篤なケガ  
94人(6.6%)



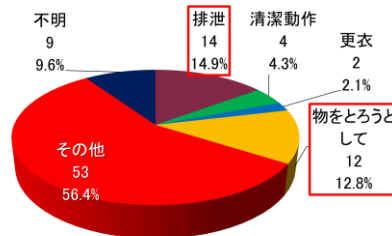
重篤なケガが起きた場所は？



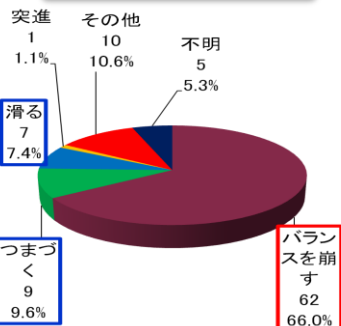
どんな時？



きっかけとなった行動は？



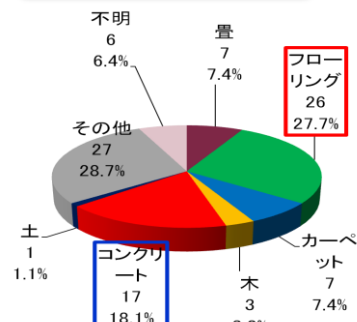
どのように？



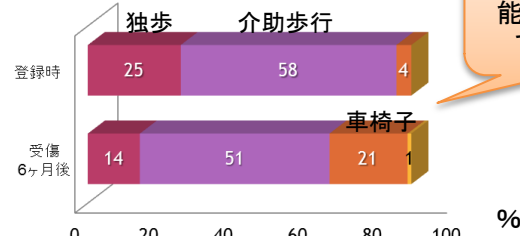
どんな人が転倒による重篤なケガを  
起こしやすいか？

- ・見守りがあれば自立レベルの認知症
- ・症状が不安定
- ・過去1年間の転倒頻度が月に数回以上
- ・過去1年間の転倒による重篤なケガが2回以上
- ・夜間3回以上の頻尿
- ・屋内外の階段を使用
- ・骨粗しょう症治療薬を2剤以上服用

ぶつかった物は？



半年後の移動能力は？



受傷後、移動  
能力が悪化し  
ていました

骨折部位

骨折以外の受傷部位

